

Web 会議システムを用いた看護学講座のご紹介



認定看護師は、特定の看護分野における熟練した看護技術及び知識を用い、あらゆる場で看護を必要とする対象に、水準の高い看護を実践し、社会に看護ケアの広がりや質の向上を図ることを目的として活動しています。当院では16分野31名の認定看護師が在籍し、それぞれの分野で日々活動に取り組んでいます。当院看護部には認定看護師がお互いに助け合いながら切磋琢磨する場として、認定看護師会があります。認定看護師会では、それぞれの分野の認定看護師が質の高いケアを届ける目的で、地域に公開した看護学講座を開催してきました。しかし、COVID-19感染症の流行で看護学講座の開催が制限され地域の医療職の皆様へ認定看護師のもつ知識や技術を届けることが難しい状況となっていました。こうした状況を受け、認定看護師会では、看護学講座を地域へお届けする方法を試行錯誤し、先般12月にWeb会議システム（Zoom Meeting®）を用いた看護学講座の開催に至りました。開催は地域医療機関の方々にはWeb会議システムで参加していただき、院内看護師は研修会場で直接参加するハイブリット形式としました。研修内容は糖尿病看護分野が担当し、インスリンや血糖測定、手術前後の血糖管理など看護師にとって関心の高いテーマを5つ企画しました。Web会議システムを採用した結果、地域の医療機関から10名程度の参加があり、看護師以外の医療職の参加もありました。院内の参加者も合わせると30名近くとなり、終了後のアンケートでは満足度の高い評価をいただきました。

こうした結果が得られたのはWeb会議システムを用いたことで地域の医療機関からアクセスがしやすく、看護師以外の他職種の参加につながったのではないかと考えます。今後も、こうした利点を活かしWeb会議システムを用いた看護学講座の開催を続けて参りたいと思います。

糖尿病看護認定看護師 / 慢性疾患看護専門看護師

村田 中

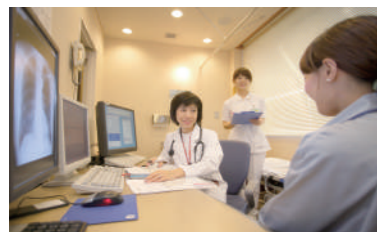


健診センターからのお知らせ

「土曜日」開設の人間ドックご案内

●平日は忙しくて！という方向け

平日は忙しくて健診を受けられない方（65歳以下）を対象に、土曜日の人間ドックを開設いたしました。



一申し込み方法一

電話予約または直接健診センターへの来院予約

月曜日～土曜日 午前9時～午後4時
（但し年末年始12/29～1/3及び5/1は除く）

電話番号 0422-30-5638（直通）
または0422-32-3111（代）

「平日」開設の認知症ドックご案内

●頭を健康を意識する方向け

体の健康だけではなく、頭の健康を意識する方向けに、認知症に重点をおいた認知症ドックを平日に開設いたしました。



健康管理の一環として、武蔵野赤十字病院健診センターをご利用ください。お待ちしております。

★詳しくは病院ホームページ→「人間ドックのご案内」でご紹介しています。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

武蔵野赤十字病院



Eye むさしの

頼れる病院をめざします



No. 72

2022年冬

〒180-8610
東京都武蔵野市境南町1-26-1
TEL 0422-32-3111
季刊 情報誌

謹賀新年

基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供します
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図ります
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進めます
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続します
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくります



新年あけましておめでとうございます

地域で信頼される病院の役割を果たします

2020年から新型コロナウイルス感染症拡大によって多数の患者さんの入院診療を行ってまいりました。

武蔵野赤十字病院は全国赤十字病院の中でもっとも多い800名以上の患者さんの入院診療を担当してきました。

病院内の感染対策をきっちり行っており院内で患者さんに感染した人はいません。安心して受診してください。

武蔵野赤十字病院は2020年4月より東京で5カ所しかないがん診療連携拠点病院（高度型）に指定されました。

ゲノム医療やロボット手術などを発展させていきたいと思えます。

また、無痛分娩を2020年8月から開始し、順調に患者さんが増えています。循環器や脳神経疾患、整形外科など体に負担が少ない治療を進めていきたいと思えます。

ドクターカーを導入し、必要な場合には救急救命科の医師が駆けつけます。職員皆が協力しあって地域医療に貢献することに取り組んでくれています。

初期研修医のマッチングでは1位希望者が2年連続全国で1位の数になり、医学部学生が最も研修したい病院だという評価が得られたと思えます。

さらに、患者さんが病気を患ったときのサポート体制を充実させています。リハビリや緩和ケア、カウンセリング、栄養指導や仕事と治療を両立させていく支援なども力を注いでいます。

是非役立てていただければと思えます。

今後とも皆さまに信頼していただける病院を目指していきたいと思っております。

是非役立てていただければと思えます。

今後とも皆さまに信頼していただける病院を目指していきたいと思っております。

是非役立てていただければと思えます。

病院長 泉 並木



今年もよろしくお願ひ致します

「新たな年を迎えて」

新年明けましておめでとうございます。

去年は、新型コロナウイルス対応に多くのエネルギーを注いだ一年だったと感じております。特に「第5波」は、行政だけでなくそれぞれの医療施設が地域での役割を問われたと認識をしております。

自施設だけでは解決が困難な状況も、各々の施設が地域で期待される役割を果たすことで協働が進み、課題解決につながると実感しております。

またこうした状況は、医療施設だけでは到底解決できるわけではなく、ワクチン接種や感染防止対策を粛々と実行する地域住民の皆様の自助・共助がなければ、医療崩壊は免れないと強く感じました。

当院は、2020年1月の武漢からの帰国者対応をはじめ、新型コロナウイルス対応を実施してまいりました。しかし、当院が対応すべく疾患はそれだけではありません。がん、脳卒中、循環器疾患、それ以外の高度医療を必要とする地域の皆様の期待に応えることが重要と考えております。

その役割を果たすためには、人材育成が不可欠です。当院では新人からベテラン看護師まで、それぞれに応じた研修を実施しております。また専門看護師9名、認定看護師32名、特定行為研修終了看護師11名がおり、院内だけでなく地域での活動を実施しております。

2025年問題のその年が迫る中、高度急性期病院などの医療施設で入院加療する期間は年々短くなっており（当院の平均在院日数は9.9日）、入院前後の地域との連携を推進し「時々入院、ほぼ在宅」をシームレスに実行するためには、当院の看護職が地域に出向き、在宅医療を支える地域の皆様と協働していくことは重要と考えています。

その具体的手段として、専門の看護師による同行訪問や当院の「看護学講座」をオンラインで地域の看護職向けに配信するなど実施しております。

今年も「時々入院、ほぼ在宅」をこの地域で実現するために、皆様と共に進めて参りたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

看護部長 奥田 悦子

